



第 146 号

# Björk

—ビョルク(白樺)—



1月の大使館訪問の際に。昨年秋に就任されたペールエリック・ヘーグベリ 駐日スウェーデン大使、レーナ・フォン・シドー公使参事官、アダム・バイエ広報文化担当官とともに。

インタビュー「ペールエリック・ヘーグベリ 駐日スウェーデン大使」 .....	2
寄稿「スウェーデンの中の日本」 .....	ストックホルム大学日本学科 教授 リンデル・儘盟・ガンナル 8
連載寄稿「スウェーデンの現在」⑩ .....	ソフィア・マルム 12
新刊図書紹介コーナー .....	14

一般財団法人スウェーデン交流センター（理事長 内野 貢）

〒061-3777 北海道石狩郡当別町スウェーデンヒルズ・ビレッジ2丁目3番1

TEL 0133-26-2360 FAX 0133-26-2992

<http://www.swedishcenter.or.jp/> e-mail : [info@swedishcenter.or.jp](mailto:info@swedishcenter.or.jp)

# ペールエリック・ヘーグベリ

Intervju med ambassadör Pereric Högberg

2019年まで大使をお勤めになったマグナス・ローバック氏の後任として、昨年秋からペールエリック・ヘーグベリ大使が就任されました。去る1月に大使館で大使にお会いし、新大使としての抱負や日本の印象などをインタビューしてきました。



## 大使就任まで

SCF 職員(以下「-」)本日はどうぞよろしくお願いいたします。

まずは大使のご経歴をお聞きしてもよろしいですか？

(ヘーグベリ大使) こちらこそよろしくお願いいたします。まずは私の経歴ということで…私はストックホルムから400 kmほど北にある都市スツヴァルで生まれ、高校まで過ごしました。子どもの頃から音楽が好きで合唱に親しみ、合唱サークルに入って活動することもあります。スツヴァルの高校を卒業した後はウプサラ大学で政治学を学び、研究助手も務めました。

その後はスウェーデンの国際開発協力庁(SIDA… Swedish International Development Cooperation Agency)の事務官を95年まで務め、96年にスウェーデン外務省に入省しました。まずナミビアにあるスウェーデン大使館の書記官として1年、外務省の事務官として4年、2002年から2006年まで南アフリカのスウェーデン大使館で書記官として働きました。その後2年ほど外務省を離れまして、スウェーデン芸術評議会国際部の課長として、諸外国との文化交流の発展に力を尽くしました。

2008年には外務省に戻り、アフリカ局に配属されて課長から局長になるまでの8年間を過ごしました。2016年に前任地であるベトナムの大使として任命され、昨年の夏までハノイにある駐ベトナムスウェーデン大使館で働きました。その後は皆さんがご存知のように駐日スウェーデン大使の後任として、今回の任を任されることになりました。もちろんこの刺激的でエキサイティングなポジションに「ノー」などと言うことはありませんでしたね(笑)。

-ありがとうございます、非常に興味深いワードばかりですが…個人的ながら音楽をおやりになっていらっしゃるということにとっても興味がありまして…私も以前スウェーデンで音楽の仕事をしていたものですから。

おや、そうなのですか？

-はい、その縁で多くの友人がいるものですから、ぜひ日本で彼らが活躍できる場を作ってあげたいと思っています。スウェーデンの音楽文化を知ってもらえる場を少しでも多く、と。

それは私としても望んでいることです。私が日本に来てからというもの、スウェーデンのミュージシャン達にとって日本がどれほど魅力的な場所かということを感じています。ほぼ毎月スウェーデンのバンドやオーケストラ、シンガーや指揮者に至るまで、多様なミュージシャンが来日し公演を行っています。これはスウェーデンと日本の相互の積極的な協力関係によって成り立っています。12月には私の好きな合唱の分野で、スウェーデンの放送合唱団が来日して公演を行っていましたね。

-ええ、放送合唱団のことは聞き及んでいます。とても質の高い合唱団ですよ。彼らは私の郷里の長野に来て公演をしたことを覚えています。

ほう、それは去年？

-たしか4年ほど前でした。

そうですか、しかし彼らは定期的に来日し公演を行っているということはとても素晴らしいことですね。ちなみに、あなたはスウェーデンで何をやっていましたのですか？

-私は指揮をやっていました。オーケストラの指揮を学び、度々オペラ劇場でも指揮者の手伝いもしていました。

それは素晴らしい！私はオペラが大好きなんです。先ほどにも言った通りですが歌うことが好きで、長い間アマチュアのオペラグループにも入り、歌っていました。モーツァルトのオペラ、ヴェルディのオペラ…どれも素晴らしいですね！

-オペラもやっていらっしゃるとは驚きです！ちょっとやそっとではできない、本当に歌が好きで、長い間練習を積まれていないとできるものではないので、大使の音楽へのお取り組みには感服しました。ちなみに、2018年には日瑞外交関係樹立150周年記念ということで、「ダラナシンフォニエッタ」に公演をお願いしました。

なるほど、ファールンにある質の高いオーケストラですね。彼らは北海道で公演を？

-はい、最初北海道に来てもらい、東京でもお願いしました。その東京公演を主催してくれた私の友人がスウェーデンのバロック音楽の作曲家ルーマンに興味を持っておりまして、来月(2月)に演奏会を行うと聞いています。

ほう、それはどこで？

-ここの大使館のホールと聞いています。でも主催が大使館ではなかったですね…えっと…

広報文化担当官アダム氏（以下「ア」）：スウェーデン社会研究所、ですね。

ああ、いつもセミナーを開催されているところですね。まだ代表の方にお会いしていなかったな、来月のいつですか？

ア：そうですね、日程調整しましょう。2月14日でしたね。  
—そうです。その友人なんですが、ルーマンの研究のためにスウェーデンに行くことを予定しています。それとは別件ですが、私の友人ヴァイオリニストに今年か来年、日本での演奏会をと計画を進めています。こんな風に相互に音楽の交流が進んでいってもらえると、音楽に携わる者として嬉しく思います。

## 音楽とジョギング、スキー

—それでは次の質問を…。大使のご趣味など伺ってもよろしいでしょうか？音楽、オペラなどは好きとは先ほど伺いましたが。

そうですね、先ほども申し上げたとおり音楽が好きで、オペラなど、ホールに行ってコンサートを聴くことが好きですね。でも歌うことにも力を入れていまして、合唱団に入って歌うことにも熱が入ります。スウェーデンでは音楽の中で合唱というものがとても重要な地位を占めています。歌うこと、そして大きな作品に取り組むことが好きですね、ヘンデルの「メサイア」や、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレ、ブラームスの「レクイエム」などですね。

—俗に言う「四大レクイエム（※これには諸説あります）」ですね。

そこにバッハの「モテット」も入りますが、どれもとても素晴らしい。東京ではまだ合唱団を探していないのですが、日本にいるうちには探しておきたいですね。まずは音楽、これがひとつ目です。もう一つの趣味はジョギングとスキーですね。どちらも良いのですが、ジョギングは毎週2回ほど、大使館から皇居まで下って一周して戻るコースを走ります。だいたい9.5kmほどですが、これがとても良いですね。

—健康的ですね！私も夏は家の近所に公園があるので、そこを走るようにしています。

おや、同じですね（笑）それからスキーですね。ベトナムは場所が場所なだけにスキーをする機会がなかったですからね（笑）日本ではスキーをするチャンスがあるので行きたいですね。ダウンヒルのスキーとテレマークスキーが好きですが、テレマークスキーを知っている人はなかなかいないようですね。

—テレマークスキー…ですか。スキージャンプのようなものですか？

そうですね、それとは違って滑り降りていくのですが、こうやって（ジェスチャーをしながら）。スキー板とかかかとがくっついていないんですよ。クロスカントリーなどにも適していますね。

—なるほど！色々な場面に適したスキーですね。スキーとなると北海道は海外からスキーヤーが訪れるほど、有

名な場所が沢山あります。ニセコなどは今海外からも多くの方がいらっしゃって有名ですね。

お薦めはどこにありますか？やはりニセコ？

—そうですね、ニセコはすぐに浮かんで来ますが、北海道は広いので他にもたくさんありますね。

忙しくない時であれば北海道も良いですね。出来れば人の多くない所、地元の人が行く場所などに行ってみて欲しいですね。

—それでしたら長野などはどうでしょうか？私の郷里ですが、有名な場所や良いスキー場などありますよ。

長野ですか…東京から近いですか？

ア：車で3時間ほどですね。

それは良い！



—日本にいらっしゃって観光などはされましたか？

ええ、まだ北の方には行っていませんのですが、3月に行われるバーサーロベット・ジャパンに行くことにしているの、その際には北の方に行くことにもなりますね。これまでは、神戸、京都、大阪、福岡、熊本に足を運びました。

—熊本ですか、私の知り合いのスウェーデン人に、日本刀の拵え（※日本刀の外装）の職人として活躍されている方がいますね。確か熊本だったはずですよ。

なるほど、そんな方が…。私が熊本に行ったのは女子ハンドボールの世界選手権があり、スウェーデンのチームが出場していたためです。日本とスウェーデンの対戦もありましたよ、スウェーデンが勝ちましたけどね（笑）  
—いやあ、スウェーデンはチームとしても強いですし、良い選手が多いですからね！

併せて福岡にも行きました。これは今度おこなわれる東京オリンピックの際に福岡市が、スウェーデンのチームの事前合宿地として名乗りを挙げてくださったことが縁でして、福岡市長や福岡県知事にお会いし、事前合宿地のことなどでお話をさせていただくためでもありました。

—なるほど。スウェーデンのナショナルチームはいずれも強く、また個々の選手のレベルが高いように感じます。例えば…夏の競技ではありませんがサッカーやアイスホッケーなどは強いことで日本でも有名ですね。

そうですね、アイスホッケーやサッカーも非常に質が高いものですね。

—今年のオリンピックの試合をはじめ、スウェーデンに関わる試合がおこなわれる際はぜひ見てみたいと思います。

そうですね、スウェーデンチームの活躍は期待するところですし、ぜひ日本と試合をするところも見てみたいものですね。

—その時はもちろんスウェーデンを応援させてもらいますね！

（笑）



## 日本について

—それでは次に、日本の印象をお聞きしてもよろしいでしょうか？日本の文化や日本人についてどのように感じましたか？

そうですね、ここに来てからの数か月間はとても素晴らしい発見の連続でした。以前に旅行で訪れたことはありましたが、魅力的なものであふれていますね。日本の文化はとてもエキサイティングで刺激的でありながらも、美しく静けさを湛えている。東京は非常に大きな都市で、時として無機質な灰色の建物が雑然と立ち並んでいる中で、非常に素晴らしい芸術やデザイン、時として審美的なものを見出すことができる。首都圏に3600万以上の人々が住むこの非常に大きな都市に住むということは、とても素晴らしく、かつ刺激的なことですね。その国の食べ物も、幸運にも私は好きなものをいろいろと食べることができていますけども、私が思う限りこの国の食はどれも非常に美味しく、素晴らしいものばかりですね。そして日本に住まう人々にも私は心惹かれるものを感じています。スウェーデン人と日本人とでは差異よりも相通ずることのほうが大きいように思いますし、北欧の国々と日本にはつながりがあるとも思っています。もちろんこれは広く一般的に言われていることながら、個人的には恥ずかしがりやで、雑用でも率先して行い、待つときには列になって並ぶ…と言った印象を抱いています（笑）。しかしとても質の高い食事、自然、音楽、謙虚さといった人間性、どれもが私にとって興味深いものばかりです。そしてこれは簡単なことではないものの、出来るだけ多くの場所に足を運び、心惹かれるものを探していきたいと思っています。4～5年の内にやっておきたいことですね。もちろん日本の食も、音楽も、伝統芸能などを習うことも良いかも知れませんね。

—日本という国にこれほど興味を持っていただいて、日本人としてとても嬉しく、またありがたく思います。ところで、日本ではスウェーデンの文化や社会はとても質の高い、先進的な取り組みをするという印象があります。「サステナビリティ（持続可能性）」というワードは、今の日本においても重要な鍵となっていますが、日本の経済についてはどのような印象を持っていますか？

そうですね、私が子どもの頃…8歳くらいでしょうか、その頃には、私が欲しいものというものすべて日本製のものばかりでした。ウォークマンといった素晴らしい音楽プレーヤーやカメラなどはそうですね。日本というブランドはとても質の高い、デザイン性に優れたものであると思っています。その経済規模は世界で二番目…ヨーロッパでは1年の間、日本では20年もの長きに亘って苦境に陥り、今や中国が台頭してきたので三番目に順位を落としましたが、それでも日本と言う国は非常に厳しい状況の中を堪え忍んで成長を果たしてきました。日本のインフラ維持や効率性を重んじる労働市場には関心があります。日本の経済では様々な挑戦や取り組みがなされ

ていますが、両国で将来にわたって力強い発展を遂げるためには、より国内向けの投資が必要になるのではないかと考えています。多くの日系企業はスウェーデンに限らず海外市場に投資をしており、それが果たしているものがいかに重要かも知っています。たとえば日立投資顧問株式会社はスウェーデンのダーラナ地方の都市ルドビーカ…交流センターも縁あるレクサンドに近い町で、私の母が今住んでいる街ですが、そこに大きな工場を建設し、ダーラナ地方に多大な功績をもたらしました。彼らの働きにはとても期待しています。

—そうですね。私の分野で言えば音楽になりますが…音楽の企業ではスウェーデンの企業は日本に進出してきており、日本の音楽業界に少なからず良い影響を与えていますね。より大きくなっていくことを願っていますが…。日本の企業に望むことなどはありますか？

私がまず思うところとしては、日本ではノーベル賞が意味するものが非常に大きいということが挙げられます。もちろんこれは日本に限らずスウェーデン国内でも、世界のどの国でもこの賞は大きな意味を持っているのですが…。スウェーデンではイノベーション Innovation とリイノベーション Re-innovation が重要であると考えています。今日多くのスウェーデン企業が国際的にも名のある大きな企業となっていますが、どれも130～140年の歴史を持っています。そのどれもがこれまでずっと同じことを繰り返して成長してきたわけではありません。彼らは20年、50年、80年あるいは100年前かも知れませんが、スウェーデンの企業や社会はニーズに合わせて迅速に変化することを取り入れていきました。市場の動向にも気を配りつつも、新たな社会やスタイルといったニーズに対してもアンテナを高くしていたわけです。

日本には高い技術力、教育、科学があり、それらはスウェーデンのスタイルと共にうまく機能していけると考えています。日本の科学者、思想家、企業がスウェーデンのイノベーションや新興企業と密接につながり、持続可能な都市を創り上げることに発展していくことを願っています。ここには多くの可能性が秘められているはずですよ。

昨年ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏はリチウムイオン電池を開発し、未来のエネルギーソースを発見・開発すること、持続可能なエネルギー源の開発という点において世界のエネルギー政策やエネルギー環境に多大な影響を及ぼしました。これは非常に重要なことで、彼、引いては日本が果たした役割は大きいと言えるでしょう。ただ…こうした功績の陰で、日本では長期的な持続可能性や環境面への配慮といったことへの取り組みが強くないという所が気になります。科学を読み聞かし、科学者の声に耳を傾けることが必要であり、これによって状況、事象の変化が非常に劇的なものであることを理解できることは誰もが知っていることでしょう。私たちは早急に考え方を変えていく必要があるのです。

スウェーデンと日本の違いを見るに、スウェーデンでは消費者がビジネスや市場の在り方を変えていこうと積極的に働きかけていきます。もしかしたら私の見立ては

少し違うのかもしれませんが…日本では消費者が食べ物なり日常雑貨なり、所変わればエネルギー市場なりに対して意見を言うというシーンがありません。スウェーデンでは消費者が政府に対して、より役立つように、より持続可能なものになるように要求する働きかけを積極的に行っています。SDGs のロゴマークが入った魚を手に入れることができ、お店の商品からはプラスチックのものが取り除かれています。この波は日本にも少しずつ起きてきていますね。きっと私が日本に赴任しているうちにはスウェーデンと同じような光景になることと思います。そのために、日本の消費者がより強く働きかけをしていく必要があるのではないのでしょうか。そして持続可能な社会を実現するために、日本の人々はより強く声を上げていくことが大切です、人々が望むのであれば、日本の政府もそれに応えてくれるはずですよ。—そうですね、日本では何か物事を変えていくには時間がかかってしまうことが問題ですが…「持続可能性」が非常に重要なワードであることは誰もが理解しており、大手企業をはじめとして多くの人が実践しようとしています。そのためにスウェーデンから学ぶことはまだまだたくさんあるように思いますね。

## 新大使として

—それでは次の質問を。新大使としての抱負をお聞かせ願えますか？

そうですね。大使館の仲間と共にやっていきたいこととして、大きく3つあります。一つめは両国の経済関係をより一層向上させること。経済交流を推し進めて両国間の貿易や投資をより活発化させること、これがまず一つ。

二つめは両国の友好関係を広い視野で眺めつつ、より強固に、確かなものにする。ご存知の通り私たちは一昨年外交関係を結んで150年の記念すべき年を迎えましたが、その間培ってきた友好関係をより強固にしていきたいと思っています。スウェーデンと日本の企業や経済交流が活発に行われることはもちろんですが、文化やデザイン、音楽、マルチメディアの分野でも今のスウェーデンのイメージを日本に伝えていきたいと思っています。国のリーダーや政治家、経済界どうしの相互のつながりを強めるのではなく、より若い世代でつながって行ってほしいですね。

三つめは政治。スウェーデンと日本の両政府が協力して国際的な課題に取り組むことは双方の国にとって関心のあることでしょう。それは気候問題…持続可能な気候問題や、日本やWHOも関わっている国際的な枠組み、多国間の取り決めなどであるかも知れません。

経済、両国の友好関係、政治面での国際的な諸課題…この3つの点に焦点を当てていきたいと思っています。もちろんこれらの問題は私一人ではできません。日本の「チーム・スウェーデン」…大使館スタッフのみならず、スウェーデンの経済団体「ビジネス・スウェーデン」やスウェーデンの大学、企業、関連する諸

団体と手を取り合っていくことでそれらの問題に取り組んでいけると考えています。

—「チーム・スウェーデン」…大使や皆さんならば実現できると確信しています。もちろん私たちにも出来ることがあれば協力します！

ありがとうございます。スウェーデンにある日本大使館とも緊密に協力していきたいですね。廣木駐瑞日本大使も同じ課題に取り組んでいらっしゃるし、幸運なことに今年はANAの東京～ストックホルム便の運航が始まることで、東京とストックホルムが直接つながるようになりますからね。

—直行便のことは聞き及んでいます。非常に興味深いことですね。北海道でも…これはフィンランドの会社ですが…フィンランド航空がヘルシンキと新千歳空港を結ぶ直行便を開設しました。東京～ストックホルム便と併せて、より北欧諸国と日本が近くなり、スウェーデンの人たちが日本にアクセスしやすくなりますね。



—今進行中のプロジェクトなどは何かございますか？

今年は幾つかあります、まず一つめはオリンピックとパラリンピック。アスリートたちがベストを尽くせるようにすることが重要ですが、オリンピックを通して私たちができることをしていきたい。スカンジナビア諸国で協力して投資先として、また観光等での訪問先としてのスカンジナビアをプロモーションしていきたいと思っています。オリンピックやパラリンピックに関わるテーマでのセミナーや討論会を行っています。特にパラリンピックはインクルーシブ…皆が等しく参加できるという点でスウェーデンの考えに合致しており良いテーマであるように思います。身体に障害のある人たちも参加できるということは素晴らしいことです。

二つめは今年最初の取り組みとして行っているものですが、「食」です。スウェーデンの食べ物をより日本で手に入れられるようにしていきたいと思っています。大使館内でもスタッフがスウェーデンの料理について調べ、また学んでいます。また3月に行われる国際食品・飲料展「FOODEX JAPAN2020」への参加に強い関心を持っています。そこでは、「健康」と「持続可能性」をテーマに取り上げたいと思っています。それは、ただ食材として使うだけでなく、再利用できる食材…たとえば魚を買って調理した際には、使わない箇所を捨てるという従来の方法ではなく、持続可能な方法で…種の保存と漁師の漁獲量の両方を考慮して魚を買うといったものです。

三つめの取り組みとして、スウェーデンでも関心を持って取り組んでいることですが、人と人とのコミュニケーション、人の移動、家具家電、そしてインターネットなどをつなげ、調和した「スマートシティ」への取り組みが挙げられます。スウェーデンにはIKEAやエリクソン、ABB、スカニア、ボルボと言ったとても大きく、力のある企業がありますし、牛乳パックでおなじみのテトラパックや、製菓の世界で知られたアストラゼネカもありますね。彼らと共に持続可能な「スマートシティ」を創りあ

げていくことができると思っています。この三つが今進めているプロジェクトですね。

—すばらしい！どれも魅力的な取り組みで、スウェーデン交流センターとしても何らかの形でこの取り組みに関わっていききたいですね！

そうですね、北海道でも何か取り組みをしていきたいですね。何かあるでしょうか？北海道の食については興味もあり、是非色々見てみたいものです。牡蠣やホタテなどは北海道の特産品ではなかったでしょうか？鹿肉もおいしいと聞きましたよ。

—仰る通り、北海道は食の魅力あふれるところでして、お寿司をはじめいろいろな方法で道内の名産品を食べることができますし、おいしいお店はたくさんあります。

ぜひ紹介して下さい（笑）

—（笑）もちろんです。お越しになった際には良いお店を紹介させていただきます。それに、今年は夏のオリンピックのマラソン会場にもなりますので、多くのスウェーデン人が北海道に来てくれるだろうと思っています。

そうですね！私の友人たちも多くが日本に来たいと言っていました。チケットを手に入れるのが難しいかとは思いますが、それでも多くの人に来てほしいですね。



（今回の記事は2020年1月におこなったインタビューを基に作成いたしました）

## 日本の人に向けて

—では最後に、日本の人たちに向けたメッセージをお願いします。

そうですね。スウェーデンと日本は一昨年外交関係樹立150周年を迎えましたが、未来に向けてより一層強固な関係を築いていきたいと思っています。そのために一緒に課題や問題に取り組んでいきましょう。私は両国は差異や相違点はあれど共通することの方が多く、また強いものと思っています。両国の人々が一緒に活動や仕事をしたり、お互いを学んだりしていくことで得られるものはとても大きいものですし、今夏のオリンピックや来る2025年に予定されている大阪万博などの特別なイベントを通して、次の世代に素晴らしいものを残していくことができるはずです。これはそれぞれの国の政府や企業、団体が独自に取り組んでいては成し得ないものです。ですので、これからの世代…特に若者たちにはスウェーデンと日本の双方に足を運んでもらい、新たな強い信頼関係を築くためにも、お互いの国についてより理解を深めてほしいと思います。

—最後にとても力強いメッセージをいただきました。ありがとうございました！

### ペールエリック・ヘーグベリ

#### Pereric Högberg

- 1992年 スウェーデン ウプサラ大学 政治学学位取得
- 1993年 スウェーデン ウプサラ大学 政治学部研究助手
- 1994年 スウェーデン国際開発協力庁(SIDA) 事務官
- 1996年 在ナミビア スウェーデン大使館 二等書記官
- 1998年 スウェーデン外務省 事務官
- 2002年 在南アフリカ スウェーデン大使館 一等書記官
- 2006年 スウェーデン芸術評議会国際部 課長
- 2008年 スウェーデン外務省アフリカ局 課長
- 2010年 スウェーデン外務省アフリカ局 局次長
- 2012年 スウェーデン外務省アフリカ局 局長
- 2016年 駐ベトナム大使
- 2019年9月より 駐日スウェーデン大使



# Dalahäst

## SCF ダーラハースト展

スウェーデン交流センター センターホールにて 6月8日(月)まで開催

# SCF イベント報告

2020 年は新年から新型コロナウイルスの影響もあり、SCF でも 2 月下旬から、いくつかのイベントを延期または中止するなどの対応を余儀なくされましたが、それまでに開催したイベントには毎回顔を出してくださる方やスウェーデンの文化や制度などに興味を持っていて、スウェーデン人スタッフのテレースとお話をしてみたい人など…多くの方にご参加いただきました。そんなイベントで 12 月から 2 月にかけて開催したものの報告をいたします。



## フィーカ

毎月第 3 土曜日にはスウェーデンのことについてお話をする「フィーカ」を行っています。1 月のフィーカには旭川大学の学生さんたちをはじめ多くの方が参加して下さり、スウェーデンの福祉制度についてお話をしたり、他の参加者のご希望でスウェーデンのゴットランド島や絵本作家のエルサ・ベスコフの紹介をしたりしました。

スウェーデンについて訊きたいこと、ありませんか？参加者の興味のあるトピックについてお話しします（ご要望に応じて、簡単な資料であれば用意できるかと思います）。予約は不要ですので、お気軽にどうぞ！美味しいお菓子と飲み物を準備してお待ちしております。



## スウェーデン セミナー

スウェーデンの社会や歴史、文化、時事情報に至るまで、幅広くテーマを扱いお話をするスウェーデン・セミナー。1 月 25 日（土）には「スウェーデンの王室」について講演を行い、これまでスウェーデンの歴史上で重要な役割を果たした国王や、1818 年から現在まで続くスウェーデンの王朝のバルナドッテ王朝といったスウェーデン王室のあらまし

や、2019 年に王室から 5 名が除名されたという、つい最近の事柄についてもお話ししました。

スウェーデンセミナーは毎月第 4 土曜日開催を予定しています、スウェーデンのことをもっと知りたい！専門的なことも聞いてみたい！など、興味のある方はぜひお越しください！セミナーのテーマも募集しています！



## スウェーデン語会話講座

### スウェーデンに行こう！旅行のためのスウェーデン語

スウェーデンに行った時に役立つ、ホテルやレストランなどで使える簡単なスウェーデン語会話を学べるスウェーデン語会話講座を毎年開講していますが、今回は 2 月 13 日（木）から札幌市男女共同参画センターで「スウェーデンに行こう！旅行のためのスウェーデン語」を開講しました。

初回は発音、あいさつ、自己紹介といった基本的な表現を、2 回目は時間や日付などの表現を身につける内容でした（3 回目以降は新型コロナウイルス性肺炎のこともあり、延期としました）。今年度も初心者向けの講座を計画していますので、北欧、またはスウェーデンに行きたい方はぜひ参加してみてください。



昨今日本では北欧の文化や社会制度への関心が高く、スウェーデンについて学び、スウェーデン語を学んでいらっしゃる方も多くなりました。またスウェーデンでも日本に対する関心は高く、現在もスウェーデン国内各地でも日本に関心を寄せて、日本語を学ぼうとされる方は数多くいらっしゃいます。

今回はそんなスウェーデン国内の日本語学習環境でも有数の規模と質を誇るストックホルム大学日本学科で教鞭を執っていらっしゃる、リンデル・儘盟・ゲンナル先生に、大学での日本語教育の取り組みと、先生のご専門である「邦楽」尺八の魅力についてご寄稿いただきました。



Photo by Jean-François Lagrost

寄稿

## スウェーデンの中の日本

ストックホルム大学

アジア・中東・トルコ学部 日本学科

教授 リンデル・儘盟・ゲンナル

一昨年 2018 年に外交関係樹立 150 周年を迎えたスウェーデンと日本。様々な分野で交流がある両国の関係において「スウェーデンの中の日本」もまた驚くほどの幅の広さと深さをみせているようです。ここでは、ストックホルム大学における日本学の教育と、筆者の大学内外の活動についてご紹介したいと思います。

### ストックホルム大学 日本学科

ストックホルム大学には「アジア・中東・トルコ学部」という、人文学に属する学部があり、日本学科はその学部には属しています。以前の学部名は「オリエンタル言語学部」でしたが、「オリエンタル」という言葉は今の世界においてはふさわしくない言葉であると判断され、2015年に現在の学部名に改称されました。現在は、日本学（日本語・日本文化）、中国学（中国語・中国文化）、韓国学（韓国語・韓国文化）、アラビア語、そして中東・北アフリカ学（言語教育はない）の学科があり、合計 700 名ほどの学生がそこで学んでいます。ただしトルコ学においては、研究のみで学生はいません。

その学部の中で最も多いのが日本学の学生数です。入学を希望する人数は 2000 年頃からかなり多くなっていましたが、当時の入学定数は 60 人と制限されていました。増加する希望者数に対応する体制を作るため、当時の日本学科の首席教授は筆者に、多人数に日本語を教えられるようなカリキュラムを新たに作成するよう依頼しました。筆者が 2005 年に日本から母国のスウェーデンに移り、ストックホルム大学日本学科で仕事を始めた頃のことでした。そして、2006 年から現在に至るまで、毎年 170 ~ 200 人ぐらいの学生が日本学科に入学してくるという状況が続いています。

スウェーデンの大学と日本の大学ではかなり異なるところがあります。スウェーデンの大学は生涯学習の受け

皿としても大きな役割も果たしています。また、入学しても一つだけの学期（秋学期・春学期）、あるいは一年だけ勉強をし、またその後別な学部や学科に入学するというケースも少なくありません。そういうことで、たとえ 170 人という大人数が入学してきても、日本学で卒業をする人数はおよそ 20 ~ 30 人ほどです。少なく感じるかもしれませんが、人文学の学部・学科としてみれば、この卒業生の割合は悪くありません。

毎年の卒業論文のテーマは実に多彩です。ほんの一例を挙げれば、ビジュアル系ロック、道徳教育、性教育、方言、マイナンバーと戸籍、俳句の訳し方、日本でのペットの扱い方や動物の権利などです。これらの多様なテーマ設定は、スウェーデンに住む人々の日本に対する興味・関心の広さを示しています。

ストックホルムにはユニクロも無印良品もあります。先日、無印良品に買い物に出かけたところ、日本学科で学んでいた何人もの学生がそこで働いており、何と日本語で買い物ことができました。とても楽しい気持ちになりました。



ストックホルム大学日本学科のキャンパス

# 日本学科の カリキュラム

スウェーデンの大学は三回制（三年制）ですが、卒業したら修士課程に進むこともできます。しかし、博士課程は審査を経て初めて入学することができます。博士課程の学生は同時に大学の職員としても扱われます。フルタイムの時間の8割を使って自分の研究をし、残りの2割の時間は授業を担当したり教えたりします。

博士課程は4年ですが、その2割の時間を授業などに充てると、勤められる期間は5年になります。つまり、学士は3年間、修士は2年間、博士は4年+1年で5年間です。学士と修士の課程の学費はスウェーデン人やEU域内の国の学生なら無料ですが、博士課程に入ると学費が無料なだけでなく、さらに、日本円にして約30万円の月給が支給されます（研究や教授を合わせてフルタイム勤務の場合）。博士課程のシラバスの半分を修了できた段階で給料が上がり、そして8割を修了すればさらに上がります。このように博士課程に在籍する条件はかなり良いと言えるでしょうが、なかなか博士課程には空きはありません。博士課程に大量に学生を入れずに絞って入学させ、教える現場での経験も積ませます。経済的な待遇を良くすることで博士課程を修了する率を高めながら人材を育成する工夫をしていると言えます。現時点でストックホルム大学日本学科には博士課程の学生が二人在籍しています。

学士まで（5学期目まで）は75%のコースが言語に関するものです。つまり、文法・漢字・読解・会話などのクラスがほとんどです。残りの25%は、たとえば1学期目と5学期目においてはオリエンテーションや論文の書き方などの内容で、2、3、4学期目においては言語以外の事柄についていろいろなコースを学生が自由に選択することができます。日本の歴史や今日の日本社会から、舞台芸能、文学史、美術史、平安時代の朝廷文学、漫画とアニメ、ポップカルチャーに至るまで、幅広い分野のコースを設定しています。最後の6学期目は、理論や分析法、論文の構成を学んだのち卒業論文を作成します。年によって卒業生数は異なりますが、およそ20人程度から多ければ30人ほどという幅があります。これは同学部内のその他の学科の卒業生数を上回っています。

## 大学内外での活動

大学内の活動ではありながら、ストックホルム大学では大学のカリキュラム以外の活動をいろいろ行っています。まずは「日本語弁論大会」ですが、これは日本国大使館や日本人会、そしてJBC（Japanese Businessmen's Club）との共催企画で、高校生や大学生の日本語学習者のために毎年2月頃に実施しています。ストックホルムには日本語の授業を設けている高校はいくつもありますが、今年の弁論大会で優勝した高校生は、なんと独学で日本語を学んでいる人でした。彼は大会の賞品として、日本

への往復航空券を手に入れました。

また、毎年7月の第一日曜日には「日本語能力試験」を実施しています。去年は160人近くがこの試験を受験しました。スウェーデン国内からはもちろんのこと、隣国のフィンランドとノルウェーや、バルト三国、遠くはイタリアやギリシャなどからも受験者が集まります。

日本の大学からの訪問やストックホルム市街で行われるさまざまな文化的催し物は学生への刺激になります。私自身もいろいろな場所や場面で活動していますが、特に、副業と言っても良い尺八の演奏や指導を行うことで、スウェーデンと日本、ひいてはヨーロッパと日本の交流に携わっています。



キャンパス前で行ったパーティの様子

## 尺八の活動

私は1985年に初めて渡日し、そこで直ぐに尺八と出会いました。しばらくしてから、後に人間国宝（無形重要文化財）認定になった山口五郎師に紹介され、そのまま師の元でお稽古を続けました。1993年には日本の文部省（当時）の奨学金をいただき、4年間にわたって東京芸術大学で尺八を勉強することができました。1998年には山口師に「儘盟（じんめい）」という竹号を与えられ師範として活動することを許され、スウェーデンに帰る2005年まで日本国内外で尺八の演奏や指導をしてきました。私は西洋音楽を専門的に学んだことがありません。ですからこれまで学んだ江戸時代の音楽が自分の音楽の基盤になっています。これはヨーロッパに生まれ育った音楽家の経歴としてはちょっと風変わりかもしれませんが。

スウェーデンに帰ってからはヨーロッパを中心に活動を続けています。2006年に設立されたヨーロッパ尺八協会の顧問であり、その協会が企画するサマースクールや各地での尺八フェスティバルなどでは指導や演奏をしています。母国のスウェーデンよりもフランスのグループは特に活動的で、少なくとも年3回ほどフランスの各地でワークショップとそれに伴う公演を行っています。そのフランスのグループとの活発な活動が認められ、2018年には正式に「竹盟社フランス教場」として認定されました。

日本で教えていた時は、多くの生徒やお弟子さんたちが老後の趣味として尺八を習っていましたが、日本以外

の国で尺八を習う人たちはどの国であっても、習う人たちの年齢層が 20 代以上（時には 10 代の人もあります）と幅広く、いくつかの点から尺八に興味を持っています。それらの興味はおよそ次のようなタイプに分けることができます。

- 1) 尺八本曲（江戸時代に尺八を吹いていた虚無僧らの伝統としてできた音楽ジャンル。瞑想的な曲が多い。）だけに興味のある人たち。その中には、尺八が持っている「禅」の背景を汲んで、座禅や瞑想に興味を持つ人が多くいます。また地歌箏曲（江戸時代のアートミュージックである地歌と箏曲に、尺八が加わるスタイルがあります）にも興味を持ったり、また本曲の瞑想的な要素や音楽的な要素にも興味を持ったりする人がいます。
- 2) 現代音楽に尺八を使用したいと思っている人たち。特に、ジャズなどに取り入れる人が少なくありません。
- 3) 全く最前線の音楽を作ろう（作曲しよう）とする人たち。

ちなみに私が教えているジャンルは（師匠の竹盟社芸風の）琴古流本曲と、江戸時代の芸術音楽である地歌箏曲が中心となっています。そして私の弟子たちは、尺八音楽にも、また尺八に関連した瞑想的な要素にも興味のある人たちがほとんどです。彼らの国籍はさまざま、スウェーデン人をはじめ、フィンランド人、フランス人、ドイツ人、スイス人、ギリシャ人、ポルトガル人、ポーランド人などがいます。こんなにさまざまな国の人たちが日本の古い楽器である尺八に興味を持っていることを、日本の皆さんはどう感じるでしょうか。

尺八は私にとって、とても魅力的な楽器です。尺八はオーケストラの中でも、また合唱曲の中でも存在感を放ちます。たとえば、日本にもルーツを持つアメリカ人作曲家でバイオリニスト、さらには指揮者でもあるジョセフ・スウェンセンと、広島原爆をモチーフとしたオーケストラの楽曲 SHIZUE をスウェーデン、フィンランド、スコットランド、ポルトガルそしてポーランドで演奏してきました。またクリスマスが近づく頃には、尺八と俳句をモチーフとしたレクイエムを合唱団とともに演奏してほしいと依頼されることもあります。

また、日本から邦楽界の一流の演奏家を招き、ともに演奏することもあります。ちょうど先日の 2020 年 3 月 1 日には、ストックホルム中心部にあるコンサートホール（ノーベル賞授賞式が行われる会場）の小ホール（Grünwaldsalen）で、地歌箏曲と尺八本曲の演奏会がありました。日本から招聘されたのは藤本昭子、毛塚珠子、善養寺恵介のお三方、そして、私は司会のほかに出演もさせていただきました。

ホールはほぼ満席で、演奏会後には「大変感動しました」という声掛けをたくさんの方にいただき、スウェーデンの全国紙ダーゲンス・ニューヘテル Dagens Nyheter (DN) の

評論でも高評価でした。4 月にはスウェーデンのラジオ局 (SR) で放送される予定になっており、それは日本でも視聴することができます。また、放送後一ヶ月の間はラジオ局のホームページ上からアクセスして視聴できます。ぜひ、お聴きになってみてください。



3月1日におこなった地歌箏曲と尺八本曲の演奏会

ラジオ局のホームページ  
<https://sverigesradio.se/>

尺八の尽きない魅力と可能性は私にとってかけがえない宝です。これまで活動の幅を広げてきたスウェーデンやフィンランド、フランスを始めとするヨーロッパでの活動を、さらにこれから広げていきたいと考えています。

2016 年には、これまでの大学内外での活動が評価され、日本国外務大臣表彰を受けたことは大変光栄なことでした。そのような形での評価は思ってもみないことでしたが、これからも大学の内と外で、日本とのつながりをいっそう深く、深くしていくことに少しでも貢献ができればうれしく思います。



じんめい

リンデル 儘盟 グンナル  
Gunnar Jinmei Linder

1985 年より尺八を山口五郎に師事。93~97 年東京藝術大学大学院・琴古流尺八専攻修了。98 年に「儘盟」の竹号で師範に。2005 年母国スウェーデンへ帰り、現在に至ってストックホルム大学に勤務。12 年日本学博士号取得（論文は [su.diva-portal.org](http://su.diva-portal.org) から無料でアクセス可能）。16 年日本国外務大臣表彰受賞。大学の仕事の傍、ヨーロッパを中心に尺八の指導や演奏、また日本文化の講演などで幅広く活動中。

# SCF 元スタッフ ソフィア・ヤンベリさんの 著書が出版されます！



## ぼくが小さなプライド・パレード 北欧スウェーデンのLGBT+

ソフィア・ヤンベリ 著  
轡田いずみ 訳

出版社：ミツイパブリッシング  
価格：2,400円＋税（予定）  
四六版並製 / 224ページ

**2020年4月24日（金）発売**

スウェーデンはLGBT+フレンドリーな国？

幸せと福祉の国で生きる、セクシュアル・マイノリティの声を伝える現地レポート。権利向上の歴史から、ジェンダーレス幼稚園や世界初のLGBT+専用高齢者住宅など、最新のトレンドまで。差別を知らない若者、子育て世代やシニア世代、当事者家族など、多様性あふれるインタビューも多数収録。

### 著者 ソフィアさんからのメッセージ

文章を書くことや、物語を書くことが好きな私にとって、今回発売された「ぼくが小さなプライドパレード；北欧スウェーデンのLGBT+」は私にとって記念すべき初出版の本です。今回この本を書くにあたっては、私の想いと共に文をしたためていきました。もちろんこの本に書かれていることはすべて、今回取材に応じてくださった、実際にいる人々の実際のストーリーによるものです。

私自身もバイセクシュアルな人間として、LGBT+という言葉の意味はよく理解していますが、今回の執筆活動を通して、スウェーデンにおけるトランスジェンダーの人々の生き方とは？同性カップルの人たちにとって子どもをもち、育てることとは？スウェーデン国内では過去、ゲイの人たちはどのように育ち、生きてきたのか？といった、バイセクシュアル以外のLGBT+コミュニティの人々のアイデンティティについても想いを巡らせることができました。

スウェーデンはLGBT+に対して理解があり、また優しい国として知られています。それゆえにこの本を執筆するだけの十分なエピソードに恵まれました。もちろん、読んでいただいて他の多くの国の事情と比べていただき、それぞれの国のLGBT+の在り方についてお考えいただければ嬉しい限りですし、そうであってほしいと願っています。

今回この本の執筆にあたり、出版にご尽力いただいたミツイパブリッシングの中野様、丁寧かつ的確に翻訳作業をしてくださったノルディック・インスピレーションの轡田様に心から感謝いたします。私たちがありのままで生き、それが受け容れられる…この本を通して伝えたいメッセージが、日本の読者のみなさんに伝わりますように。



### 訳者 轡田いずみさんからのメッセージ

「こんな社会のあり方があるんだ…！」留学や仕事を通してスウェーデンに比較的関わりのある私ですが、驚きながら本を読み進めました。LGBT+という言葉が擁する多様なアイデンティティ、LGBT+の権利を守る法律に、幼稚園や高齢者住宅などの多様な場。スウェーデンでLGBT+として生きることをリアルに伝える当事者のインタビュー。とにかく一ページが濃い“体験”で、自分の中の価値観を何度も揺さぶられた一冊でした。

誰もがありのままで生きられる社会を目指して一人ひとりが行動する姿には、異なる社会を生きる私たちにとっても普遍的な示唆が沢山詰まっています。ページを読み進めるごとに、きっと優しく背中を押してもらえますはずです。

# スウェーデン婚活事情

皆さん、こんにちは！お元気ですか～^^～

いつも記事を読んでくださって、本当にありがとうございます。私の書いた記事が皆さんのお役に立てば嬉しいです！この前、Instagramで「どんな話題に興味ありますか？」というアンケートを募集したところ、「スウェーデンの婚活事情」が一番という結果になりました。皆さん、投票して下さってありがとうございます！

それでは早速、今回の本題に入りましょう。スウェーデンの婚活事情はどんな感じですか、です。



## 付き合う前の流れ (日本とスウェーデンの違い)

付き合う前の流れは日本と違うのかというと、もちろん人によって違いますが、まず一番に思い浮かぶことは、

### スウェーデンには合コンがない。

合コンよりも、ここ数年は婚活アプリのほうが流行っています。ティンダーとか。ちなみに、日本では婚活サイトで利用料金を支払って、相手を探すサイトは見ましたが、スウェーデンではそういったサイトを見たことがないです。で、スウェーデン人の婚活アプリを使っている男性の話を見ると、身長は何センチですかと女性に聞かれることが多いらしいです。

## 自然発生的な付き合いも

カップルになる前にキスするかどうか、またはセックスをするかどうか、つまりそういったタイミングは付き合い合ってからか、それともいつでもいいかという順番の違いは人によって違います。

## 美の感覚

顔が小さくてかわいいと日本で聞いたことありますが、これにはびっくりしました。恋愛対象になる人のどこを見るのかは人によって好みが当然違いますが、文化の違いもあるみたいです。たとえばスウェーデンでは、最近ジムに通うことがブームになっていて、女性でも男性でも、筋肉がついていればセクシーという感覚もあります。

スウェーデンではちょっとした面白い矛盾があります。多くの女性は自分に余計な脂肪がついていて、めんどくさいみたいなことを言いますが、それに対してたまに聞く男性の台詞はというと、「何かを掴みたいからいいよ」だそう。つまり脂肪があつてたとえば抱きしめる時に、やわらかいから脂肪あつていいじゃんみたいな。もちろん、そういったことはどこの国でもありますかね～、はは。

## 因みに、相手の容姿にコメントすることに関してのスウェーデンマナーですが、

一つ言えることは、美醜にかかわらず外見や容姿にコメントしないのがマナーです。これは自分を大切にしている心、相手の自尊心を傷つけないためです。たとえば「あれ、痩せた？」「あれ、太った？」「顔小さいね」「背大きいね」などは「余計なお世話だよ！放っておいて！」となります。外見は変えられない要素を含んでいて、それは個人の自由と尊厳に関わるので、そこにコメントすることは極めて難しい問題であるからです。安易に口にすれば思慮に欠ける人と思われるでしょう。「え、美しいもだめなの？」という声も聞こえてきそうですが、これも、何かを「美しい」ということは、同時にその裏があることを示唆しかねない、実に扱いが難しい言葉と言えます。なので外見や容姿にコメントしないことはマナーと考えられています（もちろんコメントしても良いときもあります、でも基本的にNG）。もし褒めるなら、その人の内面を褒めることが良いのかも知れません。

## 割り勘について

割り勘に関してはですね、別々の勘定というスタイルが多いですが「僕が払いたい！」と考える男性も全然います。だけど、そう言うと女性に怒られるのかなと、心配する男が逆にあります。どんな理由かと言うと、女性が「なんだ！私は自立しているから。私がお金がないを思い込ませないでほしいです！」という理由です。

これに関しての意見はいろいろありますね。男性に払ってもらっても良いという女性もいますし、いやな女性もいます。自分の経験の話になりますが、私があるデートに行く前に、相手に訊かれました。レストランで晩御飯をするという約束があつて、「ね、レストランを出るときに、ドアを開けてあげてもいいですか」って。なんて丁寧！と私はびっくりしました。いろいろな意見がありますが、それでもデートのエスコートでこういうことをちゃんと

訊くということは丁寧だし、すごいなって思いました。「いいですよ。もししたければ。」と言ったら「安心しました。」とお返事をもらいました。

割り勘や親切心については、スウェーデンでも面白い話題になっていますが、この人はドイツ出身でした。特にスウェーデン国外出身の男性にこれについていろいろ聞いたことがあります。自分が紳士的な親切さを示すとスウェーデンの女性に怒られますって。

結局、スウェーデンでは男性が女性に食事代を払うべきという前提、または女性からの期待はないと私は思います。ですが、女性に払ってあげたい男性がたまにいます。男性が女性に払ってあげたら男女平等とどう関係しているのか、または関係ないかという意見で分かれていますね。

## 告白スタイルと 親に紹介するタイミング いつから付き合うんだ？！

この前ブログでセムラのレシピをシェアさせていただきためぐみさんが、ご自身のスウェーデン告白体験談を話してくださいました。

「私もスウェーデン人の夫と付き合い始めた頃、これは付き合ってるの？遊び？と疑問に思ったことがありました。告白もなく、なんとなく自然にそうなり…ある日突然、友達の前で彼女と紹介されビックリ！その後彼にも確認し、私のモヤモヤも解決したって事がありました」ということでした。

私も似た経験が二回ぐらいありました。で、私の最終的な「決めたぞ。今からカップルだね」という方法はフェイスブック。交際中にすることで、私的には「形になった。」と思うようになりました。

まあ、そうじゃない人もいっぱいいるから結局は相手に聞くしかないかもしれません。あそこで、「違うけど？」と言われたら気まずいかもしれませんが(笑)。ここは日本の「付き合ってください！」の100%確認のスタイル大好きです。見習います！！

## 両親に紹介するタイミング

ストックホルムに住む私の日本人の友達、スウェーデンでは両親への挨拶、または紹介が早くてカジュアルなものだと知ってびっくりしていました。逆に私は「日本では両親に紹介する時は結婚を決めてから」という流れがほとんどで、その時によってはスーツを着ることもあるということにびっくりしました！もちろん、どんな国でも人によって違いますが、両親に紹介する時にスーツとは初めて聞きましたね！

ふむ。スウェーデンはこの辺ルーズかな？(笑)初めての彼氏を親に紹介したのは高校2年生の時に、結婚とかまったくそういう話にはなりません。スウェーデンでは結婚することなく、カップルとして同棲することが多いからでしょうか？たしか、親に紹介したのは付き合ってから一ヶ月くらい経ってからだったかな？

## Afterord ~あとがき~

スウェーデンの婚活事情、いかがでしたか？今回書ききれなかった社会保障や離婚事情と言ったところは後日ブログでご紹介します。次回もお楽しみに！

Author ソフィア・マルム



Sofia Malm

2010年高校を卒業後、日本に留学。カイ日本語学校で学び、帰国後日本語能力試験1級を取得。

ダーラナ大→ウプサラ大→ストックホルム大を渡り歩き日本語/日本学を修了。途中2015年に京都大学に1年の留学を経て、2017年6月ストックホルム大学日本学科を卒業。いわゆる大学移民。好きなものはおにぎり、赤飯そしてマグロ丼。

スウェーデンの生活についてInstagramとTwitterもやっていますので、スウェーデンに興味があったら、是非見てみてください！

Instagram: [instagram.com/wagasueden](https://www.instagram.com/wagasueden)

Twitter: [twitter.com/wagasueden](https://twitter.com/wagasueden)

ブログ: <https://wagasueden.hatenablog.jp/>

ブログ引越しました、登録よろしくお祈りします！

記事やブログ、インスタへのご意見ご感想お待ちしております！



発見力  
つながりを見つける力

[業務内容]  
美術、書道作品集・記念誌・町史・チラシ・ハガキ・  
パンフレット・自費出版・インターネット事業・  
各種イベント 他

NAKANISHI PRINTING CO., LTD.  
中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号  
TEL (011) 781-7501 FAX (011) 781-7516  
<http://www.nakanishi-printing.co.jp/>

スウェーデンにおける野外保育のすべて  
「森のムッレ教室」を取り入れた保育実践

エーバ・エングゴード 著  
高見幸子・光橋翠 訳

出版社：新評論  
価格：2,400円＋税  
四六判並製 / 290ページ



森の国スウェーデンは環境先進国としても知られている。それゆえ、この国の子どもたちは、誰もが森で遊び、自然に親しんで育つと思われているかも知れないが、現代スウェーデンの大人たちは、自然の中で過ごすことが子どもの心身の発達によいと考えているにも関わらず、子どもたちが自然とのコンタクトを失いつつあり、日本も同様に減少する状況にある。子どもたちに自然の中で遊び、学んでほしいと願うすべての大人におくる最良の野外保育ガイド。

(提供：新評論)

あなたの知らない政治家の世界  
スウェーデンに学ぶ民主主義

クラウディア・ワリン 著  
アップルヤード和美 訳

出版社：新評論  
価格：3,200円＋税  
四六判並製 / 332ページ



日本の国会議員の年収約 2200 万、かたやかの国では約 888 万！高橋源一郎氏らリベラルも注目する民主政治先進国のリアルな姿。民主主義の先進国と言われるスウェーデンの知られざる姿を鮮やかに描き出した本書を読むと、徹底した情報公開と国民の政治参加と監視が民主主義の根幹を担っていることがよくわかる。民主主義が揺れている今、それはどうすれば再び正常に機能するのか、本物の民主主義とは何かを考えさせてくれる 1 冊。

(提供：新評論)

スウェーデン・デザインと福祉国家  
住まいと人づくりの文化史

太田美幸 著

出版社：新評論  
価格：2,800円＋税  
四六判並製 / 304ページ



世界的人気を誇る「北欧スタイル」。その北欧インテリアの意匠と豊かな福祉国家の形成の背景には、デザインと住環境をめぐる運動があり、それらは人間形成の思想とも密接に結びついてきた。本書は、そのときスウェーデン社会で何が起っていたのか、人々の住まいと暮らしはそれによってどう変わったのかを、鋭い視点から描く「住まいと人づくり」をめぐるユニークな文化史。

(提供：新評論)

## 幸せの国スウェーデンから

くまさんと私のおもしろ北欧デイリーライフ



著者： やまだあいこ  
出版社：DU BOOKS  
価格：1,100円＋税  
A5版並製/128ページ

スウェーデン人のくまさんとの事実婚を機に、日本を飛び出したあいこ。初のヨーロッパ生活、慣れない言語、多国籍の友人に囲まれた語学学校……。文化の違いに戸惑いながら、徐々に見えてきたスウェーデンの面白さ、日本との意外な共通点。

- ・お酒を求めて近隣の島へ？
- ・「フィーカ」はなくてはならない、ゆったりタイム
- ・ケージなし！ペットは電車にそのまま乗る
- ・食事の別会計は当たり前
- ・時間に正確
- ・夏は太陽を愛でよう
- ・効率重視！チューブ調味料
- ・スキンケア、ファッションはシンプルに！

etc.

スウェーデンでの暮らしをのぞいてみませんか？

## LAGOM

“私にとって、ちょうどいい”  
スウェーデンの幸せ哲学



ニキ・ブランドマーク 著  
稲垣みどり 訳

出版社：東洋館出版社  
価格：1,600円＋税  
四六変版並製/288ページ

LAGOM【ラーゴム】とは、スウェーデンのライフスタイルに息づく概念。ちょうどいい、ほどほど、合理的、平等…そんなニュアンスを含んだ、スウェーデン独自の言葉です。

3人の子どもの母親でもあり、北欧ライフスタイルを紹介する「My Scandinavian Home」のクリエイターでもある著者が、日常生活を心地よいバランスにする秘訣を伝えます。

衣食住、人付き合い、時間の使い方…暮らしの隅々にラーゴムを。

(提供：東洋館出版社)

## 北欧女子オーサ 日本を学ぶ

オーサ・イエークストロム 著  
小倉朋子、金田一秀穂 監修  
杉山美奈子、岩下宣子

出版社：KADOKAWA  
価格：1,100円＋税  
A5版並製/144ページ



日本のアニメと漫画に感動し、北欧スウェーデンからやってきたスウェーデン人漫画家オーサ。日本に来て9年目だけど、不思議に思う習慣はまだたくさん。本書では日本での食事、日本語、おつきあい、お金の使い方について、各専門の先生に作法や成り立ちを学びます。

日本でキャラ弁はどうして生まれたの？「ちゃん」「くん」「さん」「さま」の由来は？建前と本音の見分け方は？なぜ日本人は現金をそんなに大切に扱うの？などなど、私たち日本人も知らなかった日本独自の文化についてどんどん掘り下げていきます。

ちょっとオタクなスウェーデン人漫画家が描く、日本への愛にあふれた驚き&なるほどコミックエッセイ！

## 著者 オーサさんからのメッセージ

『北欧女子オーサ日本を学ぶ』は既刊のような四コマ漫画じゃなくて、コマ割りのエッセイ漫画として描いたので、私にとっては新しいチャレンジでした！でもそのおかげで日本の食事マナー、日本語の使い方、付き合いの文化、お金の扱い…それぞれの章のテーマを深く研究することができて、とても勉強になりました。

日本人にとっても、私と同じように日本の知らないところを発見できると思って今回の作品を描きました。スウェーデンの文化と比較しているところがいくつかありますが…スウェーデンに興味を持ってくださっている方にも勉強になればと思います。

気分は北欧生活。

スウェーデンヒルズ Since 1984  
Sweden  
Hills 

## 札幌郊外の丘に北欧の街並。 スウェーデンヒルズ。

大都市近郊でありながら自然に囲まれた美しい街並。  
「人が人らしく、自然と調和して豊かに暮らす」を理想に、  
スウェーデンの住環境を再現した住宅地として誕生以来30年。  
美しい風景の中で約300家族の暮らしが息づいています。

0120-242-522 [スウェーデンヒルズ](#) [検索](#)

スウェーデンヒルズ ウェスト地区 レクサンド公園

### 賛助会員入会のお願い

一般財団法人スウェーデン交流センターは、ガラス作品や木工作品の制作などを通して多方面での交流を行うとともに、夏至祭、ルシア祭、各種展覧会など、年間を通して様々な催しを行い、スウェーデン文化の紹介を積極的に行なっています。

特に「世界一臭いスウェーデンの発酵にしん」スールストロミングの試食会を毎年開催し、多くの皆様からご好評を頂いております。

これらの催しは、当センターの趣旨にご賛同くださる皆様が賛助会員としてその運営基盤をささえてくださっており、毎回の催し等は、広報誌「ビョルク」にも掲載し、賛助会員の皆様には、年4回ご自宅まで郵送、いち早く情報提供しています。ぜひ賛助会員にご入会下さいませよう、お願いいたします。

賛助個人会員 年会費 一口 5,000円

賛助法人会員 年会費 一口 20,000円

### あとかき

- 1月には大使館を訪問し、昨秋に就任されたヘーグベリ大使、シドー公使にお会いし、これからの日瑞の関係発展のためにご尽力される決意をお聞きすることができました。これからのご活躍に期待するとともに、当財団も、より一層日瑞の交流発展につながる活動をしていきたいと思っております。
- 昨年末から世界を騒がせている新型コロナウイルス肺炎の影響が世界各地に広がっています。当財団のある北海道でも多くのイベントが中止または延期を余儀なくされました。一刻も早い事態の鎮静化を望むばかりですが、広報誌やウェブサイト、SNSなどをより効果的に使って、スウェーデンの情報を発信していきます。